

家畜衛生研修会（病性鑑定病理部門，2007）*†
 における事例記録（Ⅶ）

Proceedings of the Slide-Seminar Held by the Livestock Sanitation Study Group
 in 2007 Part Ⅶ*†

（2008年2月1日受付・2008年5月1日受理）

37 頭部皮下組織における壊死性化膿性皮下組織炎および脈絡膜炎

〔東山崎達生（鹿児島県）〕

赤鶏，31日齢。2007年4月28日に21,629羽導入（1号鶏舎8,755羽，2号鶏舎6,437羽，3号鶏舎6,437羽）。導入後1号鶏舎の斃死羽数が増加（25日齢での斃死・淘汰数18羽，その後31日齢での斃死・淘汰数74羽）してきたため，5月29日に家保へ病鑑依頼があり1号鶏舎5羽（31日齢）の病性鑑定を行った。なお，ND，IBおよびIBDワクチンは接種済みであった。外貌では，頭部から眼瞼周囲が腫脹し，目が覆い隠されていた。また，嘴の周囲に粘液と敷き料の固まったものが付着し，元気消失していた。

剖検では，5羽ともに外貌病変以外に主要臓器において著変は認められなかった。

組織学的には，頭部皮下組織において，真皮下の広範囲に偽好酸球浸潤および線維素・水腫が観察され，大小の壊死巣が認められた（図37）。眼球周囲，付属筋肉，脂肪組織にも偽好酸球浸潤が観察された。また，眼球脈絡膜に偽好酸球浸潤を認め重度に肥厚している像が観察された。主要臓器においては，心に線維素化膿性心外膜炎および脾に線維素の析出を伴う壊死が観察された。

病原検索では，ND抗体価が16倍1羽，32倍3羽，512倍1羽であり，鳥インフルエンザ検査では，簡易キット，発育鶏卵接種ともに陰性，5羽の眼ぬぐい液のプール材料から鳥メタニューモウイルス（aMPV）が分離された。細菌検査においては，MG・MS急速凝集反応陰性，眼瞼・鼻汁スワブから，非溶血性E. coliが5羽ともに分離された。主要臓器からは，細菌は分離されなかった。

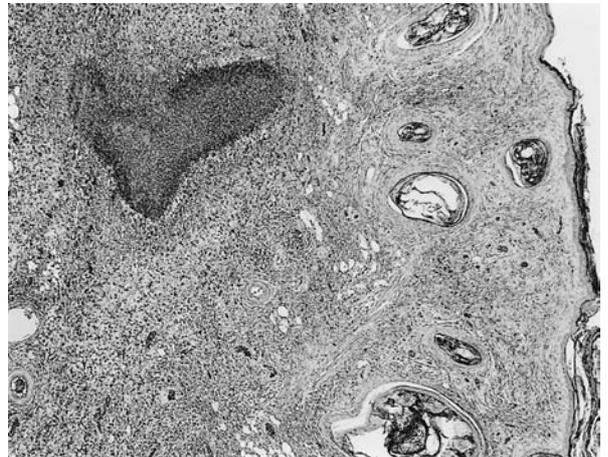


図37 頭部皮下。偽好酸球浸潤顕著，壊死巣もみられる（HE染色 ×50）。

本症例は，頭部腫脹症候群（SHS）（aMPVが分離された）とされた。SHSではその病変形成に大腸菌やaMPVの関与が疑われている。しかし，aMPVは分離困難で，その関与を否定的にみる報告もある。今回の症例ではaMPVが分離され，その関与が強く疑われた。

※以降、詳しくは日本獣医師会雑誌Vol. 62 No. 6をご覧ください。

*（独）農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所（〒305-0856 つくば市観音台3-1-5）

* National Institute of Animal Health (3-1-5 Kannondai, Tsukuba, 305-0856, Japan)

† 連絡責任者：芝原友幸（独）農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所）

〒305-0856 つくば市観音台3-1-5 ☎・FAX029-838-7774 E-mail : tshiba@affrc.go.jp

† Correspondence to : Tomoyuki SHIBAHARA (National Institute of Animal Health)

3-1-5 Kannondai, Tsukuba, 305-0856, Japan

TEL・FAX 029-838-7774 E-mail : tshiba@affrc.go.jp